

PUBLIC SYSTEM

リモコンゲートプラス B
NRG プラスシリーズ
施工説明書

第1版 2026年2月16日

目次

■ はじめに	1
■ 同梱物・付属品について	1
■ 安全上のご注意	2
■ リモコンゲート本体と付属品の確認	5
リモコンゲート本体の外観及び外形寸法	5
リモコンの名称とはたらき	6
リモコンゲートの内部と設定	7
■ 施工の概要	16
1) 基礎の設置	16
① 基礎寸法	16
② アンカーボルト設置	17
③ 鋼板基礎（オプション）	18
2) リモコンゲートの据付	19
3) 結線	20
1. 外部電源の接続	20
2. レーザーセンサの接続組替え	23
■ 電源の入切	24
■ ゲートバーの取付	25
角型ゲートバー（3mアルミ製）	26
角型 LED 付ゲートバー（3mアルミ製）	27
■ SMARTIO の設定	29
■ 動作確認	29
■ 設置後の設定変更や困った時には	31
1) ゲートバーの水平角度調整	32
2) 直下検知センサの調整	34
3) カーゲートトランス AC110V 用結線	37

はじめに

このたびは、弊社のリモコンゲートプラス B をご採用いただきまして、まことにありがとうございます。
施工及び設置に際し、この施工説明書をよくお読みいただき安全に施工及び設置してください。
施工いただく前に、同梱物・付属品のあることをご確認ください。
施工終了後、最終点検（動作確認）を必ず行ってください。
施工説明書及び同梱物（取扱説明書・オプションなど）は、必ずお客様にお渡しし保管をしていただくようお願いしてください。

ご注意

- ・ 施工説明書に記載されていない方法や、リモコンゲートおよび付属品を他の用途または改造等により使用したことによる損害、逸失利益等につきましては、当社では一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- ・ 製品および本書は改良のため予告なしに変更する場合があります。
- ・ 本書仕様以外の記載は別冊あるいは差し込みとなる場合があります。
- ・ 本書の内容の一部または全部を無断で複写、転載しないでください。

同梱物・付属品について

- 以下の内容物が同梱されているか、ご確認ください

（注文内容により同梱されていない場合があります）

無線式リモコン	無線によりゲートバーを開く場合に用います。
バーLED	夜間におけるゲートバーの視認性を高め、車両などの衝突の危険性を減らす機能です。（アルミ製角型のみ取付可能）
バー垂れ幕	「一旦停止」または「進入禁止」と書かれた垂れ幕です。運転者に「一旦停止」または「進入禁止」を案内します。
鋼板基礎	コンクリートの基礎を設置できない場所に用います。

安全上のご注意

人への危害、財産の損害を防止するため必ずお守りいただくことを説明しています。

本機を施工・設置される前に下記事項をよくお読みの上、正しく取扱ってください。

下記事項に示した表記は安全に関する重大な内容を記載していますので、操作説明や補足説明をよくお読みください。危険が生じた場合は、電源スイッチを「切」にしてお買い上げの販売店、もしくは弊社までご相談ください。



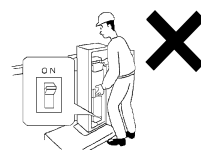
注意

誤った操作方法をするとけがや事故の原因となり、状況によっては人体の危険に繋がります。

- 施工説明書に従って、確実に行う（火災・感電・事故の原因）
- 分解・修理・改造しない（点検修理は販売店にご相談ください）

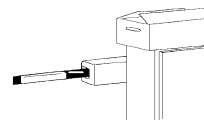
■ 電源「入」にしたままで装置内部に触れないでください

最終の動作確認、トラブル対処などで装置内に触れるときは、必ず電源スイッチを「切」にしてください。



■ 装置の上に物を置かないでください

過度の衝撃を与えたり、上から重力をかけないでください。



■ 直下検知センサ入・切スイッチは常に「入」にしてください

直下検知センサはゲートバーが閉まる時バーの下に車両などを検知するとゲートバーが反転上昇し衝突を防止するための安全装置です。安全のために常に「入」にしてください。

■ ゲートバーにぶらさがらないでください

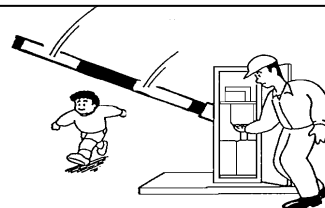
ゲートバーにぶらさがったり、指定以外の垂れ幕をゲートバーに装着しないでください。

■ ゲートバーを取り付けずに開閉動作をしないでください

設置時やゲートバーの交換の際に、ゲートバーを必ず取り付けてから動作確認をしてください。取り付けないまま動作確認などすると故障の原因になります。

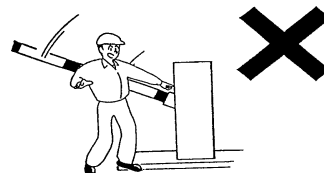
■ ゲートバーの開閉に注意してください

ゲートバーの開閉操作をするときは、ゲートバーの周辺に人や物がないことを確認してください。
人や物に当たりケガや機器破損の恐れがあります。



■ ゲートバーに触れないでください

動作中のゲートバーには触れないでください。
ゲートバーは速い速度で動作するので危険です。



■ 電源の確認

AV100V 定格電流 5A 以上の電源を用意してください。電源線と信号線は別の配管で施工してください。

配線工事及び電源工事は電気工事店へご依頼ください。

■ レーザーセンサは直視しないでください

車両検知用レーザーセンサはクラス 3R のレーザーが照射されています。
目への直接被ばくを避けること。レーザー放射口を絶対に直視しないでください。

■ 設置上の注意

1. 高圧電線の類い付近に設置するとカーゲートの誤作動の原因になります。
(電気設備事業基準に沿って施工してください)
2. カーゲートの周囲や車路周辺に草等の植物がありますと、風等によりレーザーセンサが反応し、カーゲートの誤動作の原因となります。 除去をお願いします。
3. 高周波雑音を発生する機器（たとえば電気溶接機）やテレビ、ラジオなど強い磁界を発生する製品が近くにあると誤動作する場合がありますので避けてください。
4. 引火性ガスや腐食性ガスなどが発生する場所での使用は避けてください。
発火や故障の原因となります。

■ M2M 外部アンテナについて

モバイル通信用外部アンテナはカーゲート筐体裏面上部にマグネットで取り付けられています。
通信の電波状況によりアンテナの位置を変更してください。バーホルダーの稼働によりアンテナ線が接触しない位置で取付をお願いします。

■スマートフォンの使用について

スマートフォンによるゲート開操作は、ゲートバーの手前で車両が完全に停止してから、操作することを厳守お願いします。（運転中のスマートフォン操作は法律で禁止されています。）

■ネジの締め付けトルクについて

ネジの呼び径に適した工具を使用してください。

ボルト、ネジの締め付けトルクは以下の標準値を参考にしてください。

アルミ、真鍮等の柔らかな素材に対しては、下の値の 2 分の 1 となります。

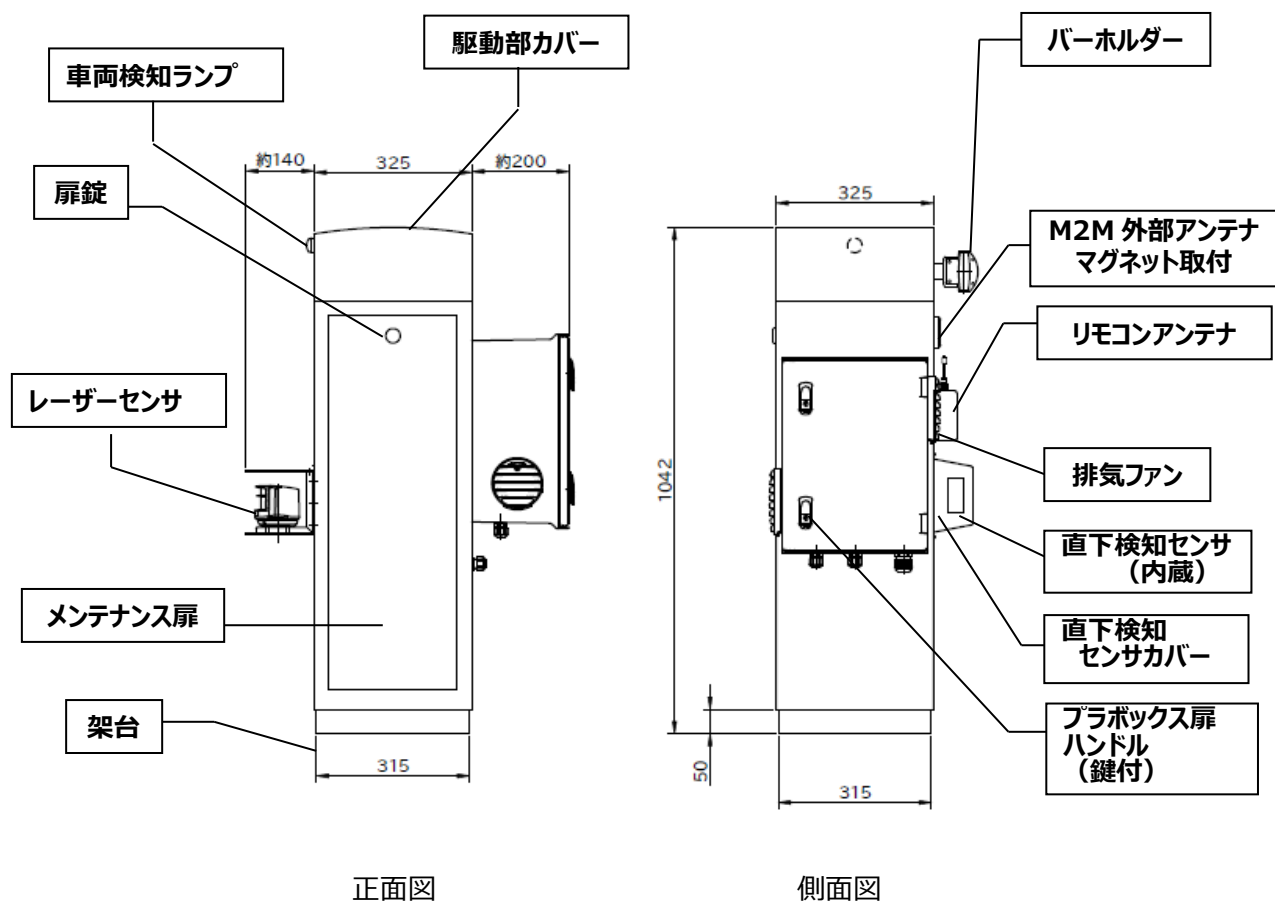
一般に、スプリングワッシャーが締まってから更に 8 分の 1 から 4 分の 1 締めこみます。

呼び径	締め付けトルク N・m
M3	0.63
M3.5	1.00
M4	1.50
M5	3.00
M6	5.20
M8	12.50
M10	24.50
M12	42.00

リモコンゲート本体と付属品の確認

【リモコンゲート本体の外観および外形寸法】

＜右設置・左設置は同じです＞



正面図

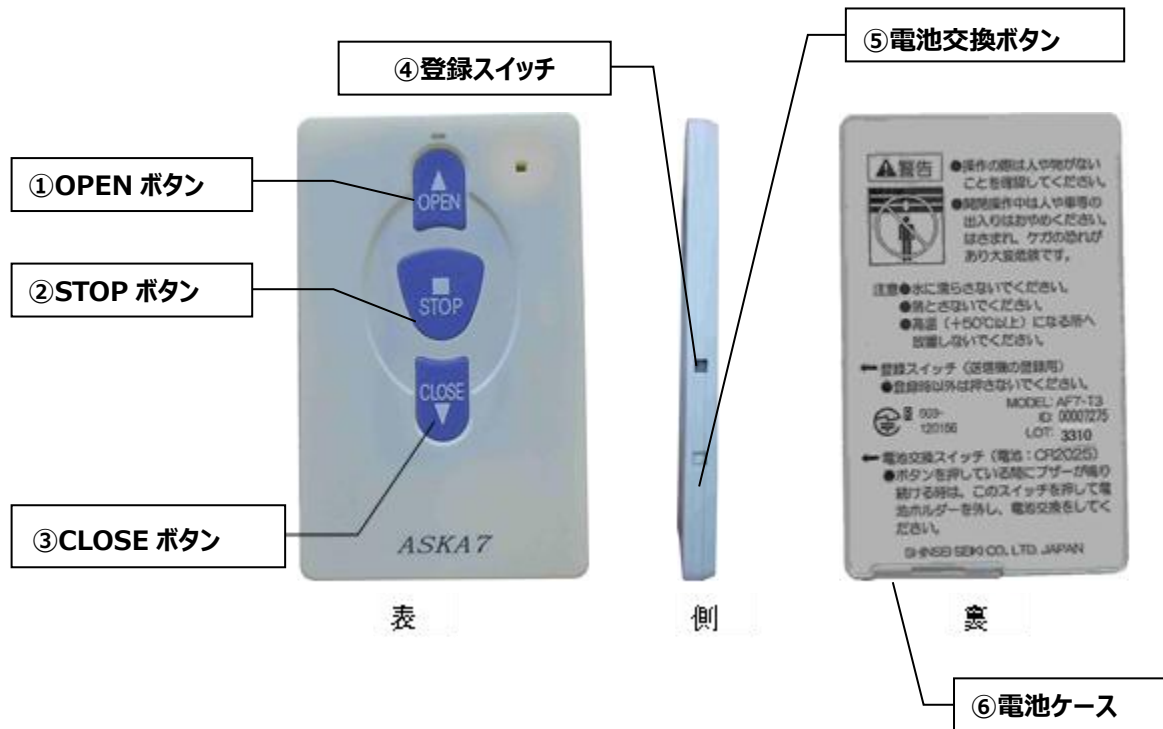
側面図

下面図

【リモコンの名称とはたらき】

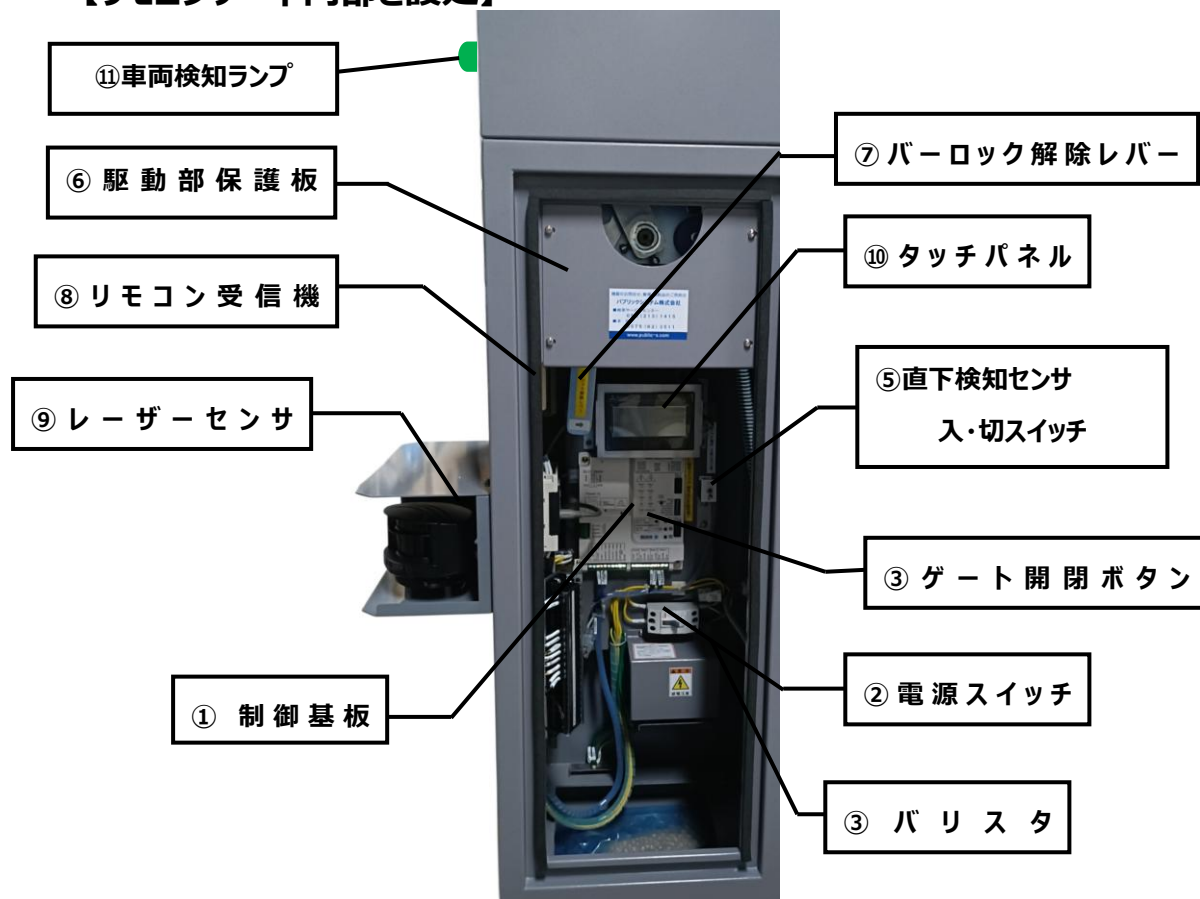
無線式リモコンが同梱されています。同梱されたリモコンをご確認ください。

リモコン送信機



No.	名 称	はたらき
①	OPEN ボタン	ゲートバーを上昇（開）させるためのボタンです。
②	STOP ボタン	使用しません。
③	CLOSE ボタン	ゲートバーを下降（閉）させるためのボタンです。（使用しません）
④	登録・抹消ボタン	受信機にリモコンを登録・抹消するボタンです。 登録・抹消時以外押さないでください。
⑤	電池交換ボタン	電池ケースを開くために使用します。
⑥	電池ケース	リチウム電池（CR2025）を入れます。

【リモコンゲート内部と設定】

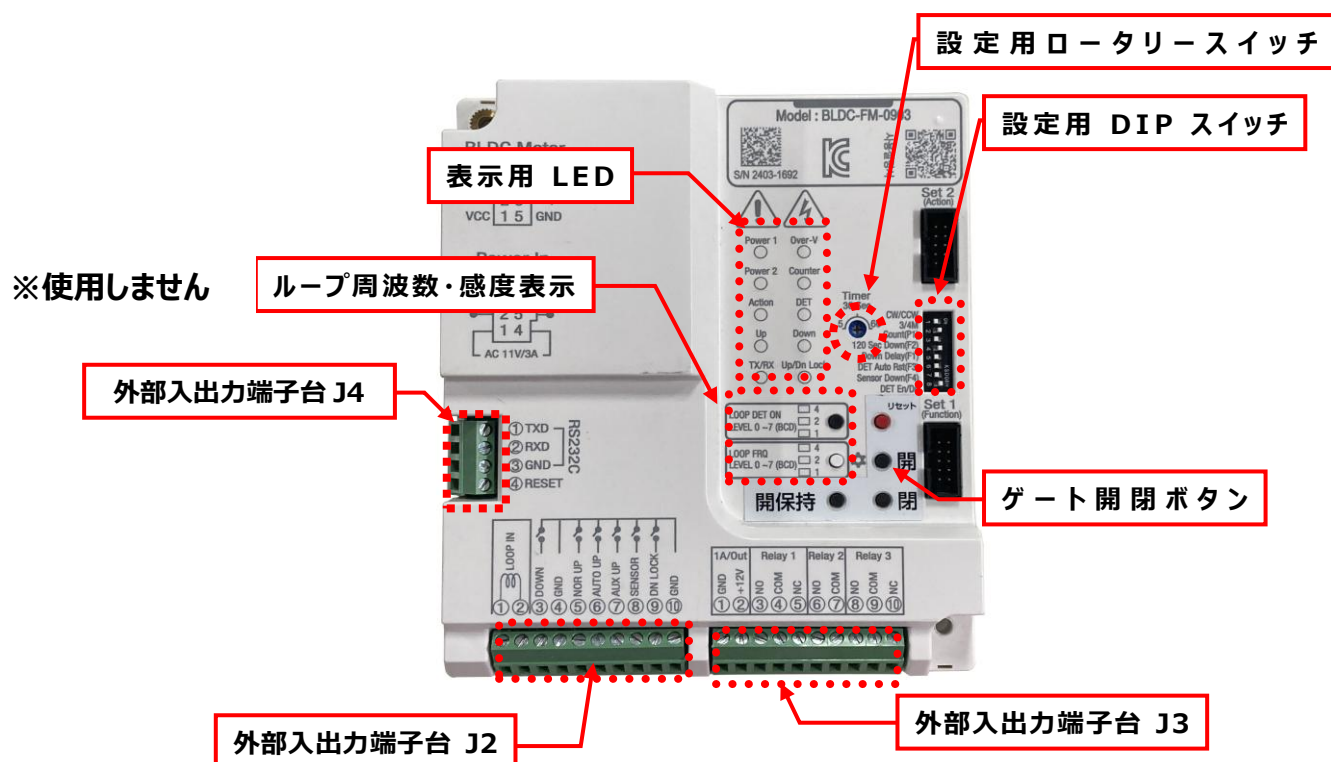


● 本体内部

No.	名 称	はたらき
①	制御基板	カーゲートの動作をコントロールします。
②	電源スイッチ	カーゲートの主電源スイッチです。
③	バリスタ	雷対策用に取り付けています。
④	ゲート開閉ボタン	メンテナンス時等にゲートバーを開閉させるボタンです。
⑤	直下検知センサ入・切 スイッチ	センサが物体を検知してゲートバーが閉まらない場合、一時的にこのスイッチを「切」にします。 ※注意 直下センサ入・切スイッチは不用意に操作できないよう、スイッチレバーを引っ張りながら操作する仕様になっています。
⑥	駆動部保護板	駆動部箇所を保護する板です
⑦	バーロック解除レバー	電源 OFF 状態でゲートバーを閉める時に、矢印の方向にレバーを動かし、ロックを解除してゲートバーを手で降ろします。
⑧	リモコン受信機	無線リモコンからの信号を受け、ゲートバー開信号を出力します。
⑨	レーザーセンサ	ゲートを通過する車両を検知するセンサです。
⑩	タッチパネル	シーケンサの動作をコントロールします。
⑪	車両検知ランプ	入口側のレーザーセンサが動作しますと点灯します。

<制御基板>

直下検知センサ、ゲート開閉信号、バーLED 表示灯（オプション）等の接続端子を以下に示します。



●外部入出力端子台 J2

端子台接続割付け表を下に示します。

※端子は、精密マイナスドライバ（3～3.5mm）使用

端子番号	内 容	備 考
1	LoopA	Down 用ループコイル接続 使用しません
2	LoopB	
3	Down（閉）	ゲートバー開閉用入力端子
4	Gnd	
5	NOR Up（開）	
6	Auto Up	（使用しません）
7	AUX Up	
8	SENSOR	直下検知センサ入力
9	DN LOCK	（使用しません）
10	Gnd	入力コモン

●外部端子台 J3

端子台接続割付け表を下に示します。

※端子は、精密マイナスドライバ（3～3.5mm）使用

端子番号	内 容	備 考
1	Gnd	1A 出力 センサ・LED 等電源 GND : 青 +12V : 茶
2	+12V Out	
3	NO	Relay1 (LED 用)
4	COM	
5	NC	
6	NO	Relay2 (開端)
7	COM	
8	NO	Relay3 (閉端)
9	COM	
10	NC	

●端子台 J4

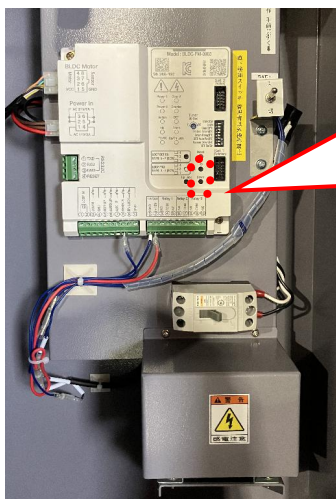
端子台接続割付け表を下に示します。

※端子は、精密マイナスドライバ（3～3.5mm）使用

端子番号	内 容	備 考
1	TXD	RS232C (使用しません)
2	RXD	
3	GND	
4	RESET	(使用しません)

●ゲート開閉ボタン

ゲートバーをボタン押下による操作で開閉動作することができます。



・リセットボタン
→ループ検知感度・周波数を設定する場合に
使用

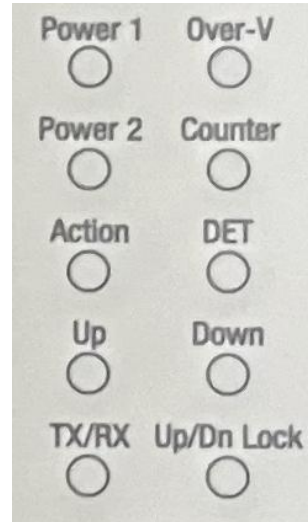


・開ボタン→押すとゲートバーは上昇

・閉ボタン→押すとゲートバーは下降

●表示用 LED

機器の動作・状態を表示する。

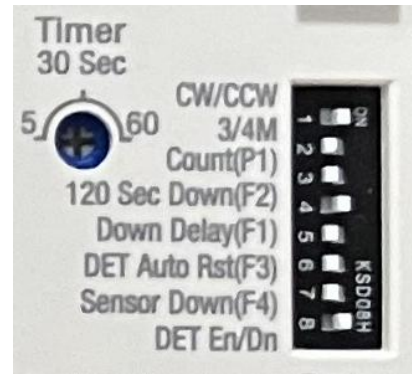


名 称	説 明
Power 1	モータ駆動用電源：AC21V 供給時、点灯
Power 2	基板内部回路駆動用電源：AC11V 供給時、点灯
Over-V	電源電圧が約 107%以上になった場合又は逆起電力発生時に点灯
Counter	基板内に設定されているカウンタのカウント時に点灯 (使用しません)
Action	ゲートバー動作時に点灯
DET	ループコイル検知機能有効時、ループコイル検知時に点灯 (使用しません)
Up	ゲートバーが Up (開) 動作時に点灯
Down	ゲートバーが Down (閉) 動作時に点灯
TX/RX	RS232C にて基板が外部と通信時に点灯
Up/Dn Lock	Up Lock/Dn Lock 操作時に点灯

●DIP スイッチ・ロータリースwitch

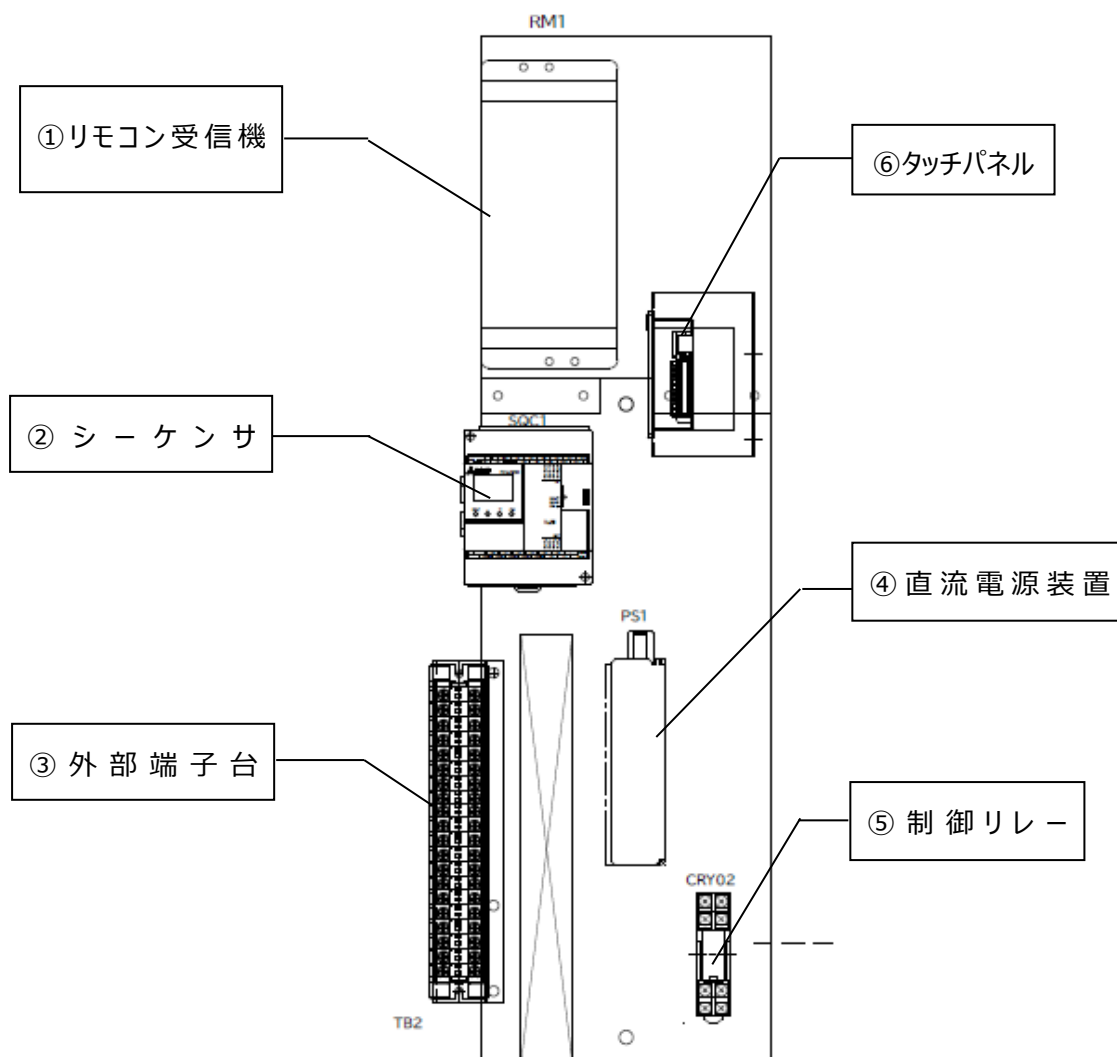
制御基板が有する機能設定を行う。

機能については、設置環境により異なる。



スイッチ No	名 称	説 明
1	CW/CCW	ゲートバー回転方向設定
2	3/4M	ゲートバーの長さ設定 3M : 3m アルミ・4m FRP 4M : (使用しません)
3	Count(P1)	ゲートバー開信号のカウント機能 (使用しません)
4	120 Sec Down(F2)	入力信号がない状態が 30 秒経過で自動ダウン機能
5	Down Delay(F1)	Down 信号受信後、設定時間待ち、バー閉動作をする (使用しません)
6	DET Auto Rst(F3)	ループ検知機能の自動リセット機能 (使用しません)
7	Sensor Down(F4)	センサ入力によるバー閉機能 (使用しません)
8	DET En/Dn	基板内にあるループ検知機能の有効／無効 En : 無効 Dn : 有効
□-列 SW	Timer	(使用しません)

＜カーゲート制御部＞



No.	名 称	はたらき
①	リモコン受信機	無線リモコンからの信号を受け、ゲート開信号を出力します。
②	シーケンサ	カーゲートの開閉を制御します
③	外部端子台	外部機器と接続する端子台です
④	直流電源装置	DC24V を供給します
⑤	制御リレー	外部への信号出力用制御リレーです
⑥	タッチパネル	シーケンサの動作をコントロールします

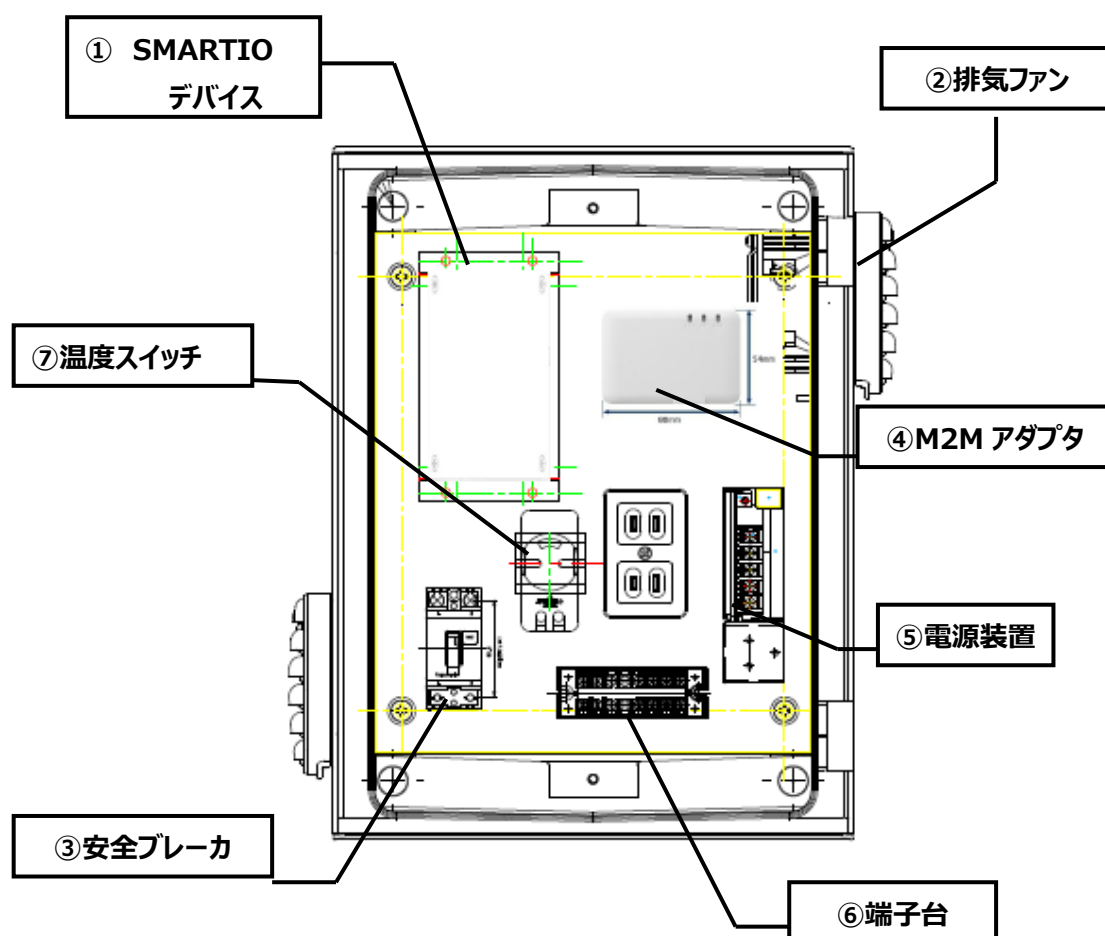
(1) 外部入出力端子台 TB2

端子台接続割付表を下に示します。

端子番号	内容	備 考
1	プラボックス	ゲートの開信号を SMARTIO に送ります
2	プラボックス	
3	外部信号出力	手動閉操作を行う時の端子です。 (使用しません)
4	外部信号出力	
5	空き	
6	レーザーセンサ 1 (DC24V)	入口 (メンテナンス扉) 側レーザーセンサを接続します。 (左設置の場合は出口側レーザーセンサとなります)
7	レーザーセンサ 1 (0V)	
8	レーザーセンサ 1 (X00)	
9	レーザーセンサ 2 (DC24V)	出口 (バーホルダー) 側レーザーセンサを接続します。 (左設置の場合は入口側レーザーセンサとなります)
10	レーザーセンサ 2 (0V)	
11	レーザーセンサ 2 (X00)	
12	プラボックス	ゲートの開閉状態を SMARTIO に送ります
13	プラボックス	
14	空き	
15	空き	
16	入出庫警報灯出力	使用しません
17	入出庫警報灯出力	使用しません
18	AC100V 入力	
19	AC100V 入力	
20	アース	外部 D 種接地を行ってください

＜プラボックス＞

SMARTIO デバイス、M2M アダプタを内蔵します

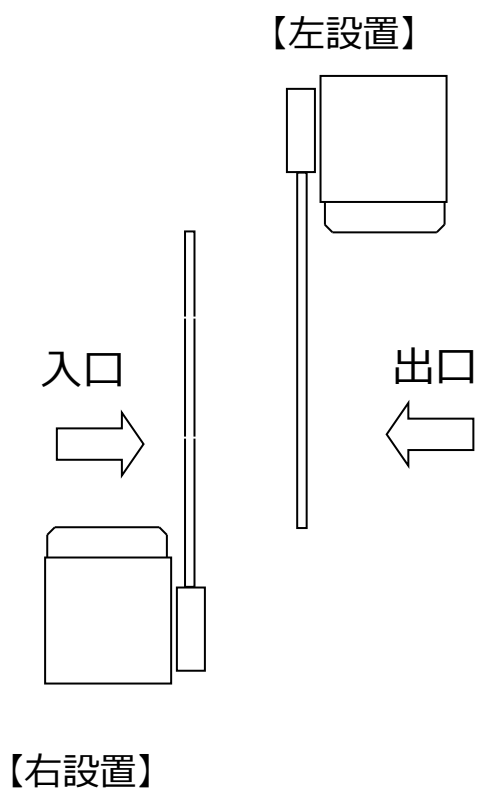


No.	名 称	はたらき
①	SMARTIO デバイス	スマートフォンからの信号により、ゲート開信号を送る装置です。
②	排気ファン	プラボックス内の温度上昇を低減するため温度スイッチに連動して動きます。
③	安全ブレーカ	プラボックス内の機器の電源を入切するための主電源スイッチです。
④	M2M アダプタ	通信用 SIM を内蔵しており、スマートフォンとの信号のやり取りをします。
⑤	電源装置	SMARTIO デバイス用電源装置です。
⑥	端子台	カーゲートとの信号中継用端子台です。
⑦	温度スイッチ	プラボックス内の温度を検知して排気ファンを制御します。

注意！



カーゲート右設置の場合と左設置の場合では、レーザーセンサの端子台接続先が異なります。発注時の設置方向を確認していただき、設置方向が異なる場合には端子台の配線の変更が必要です。



施工の概要

1)基礎の設置

- ①基礎の設置
- ②アンカーボルト設置
- ③鋼板基礎（オプション）

2) リモコンゲートプラス B の据付

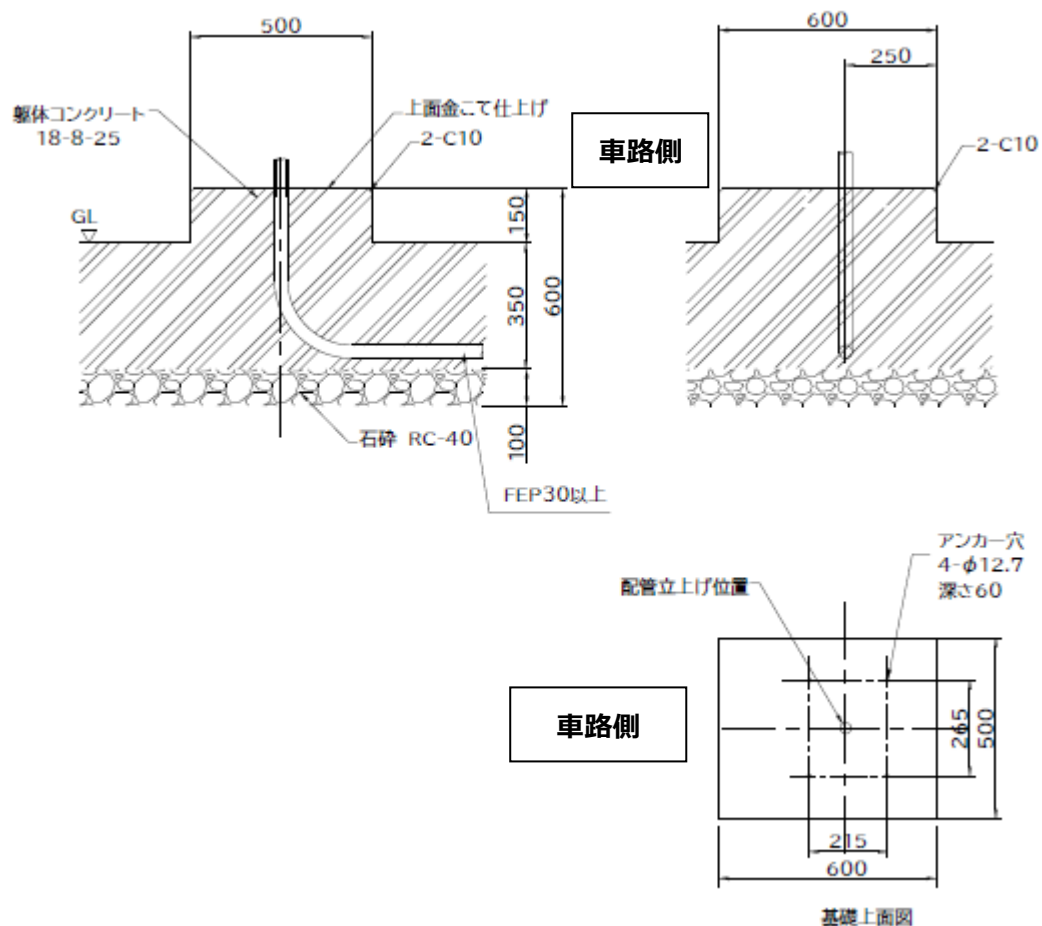
3) 結線

結線作業が終了後、ゲートバーを取り付けます。ゲートバー取付後、動作確認（P28 参照）を必ず行ってください。

1) 基礎の設置

基礎の標準寸法は以下の図を参考に作成してください。

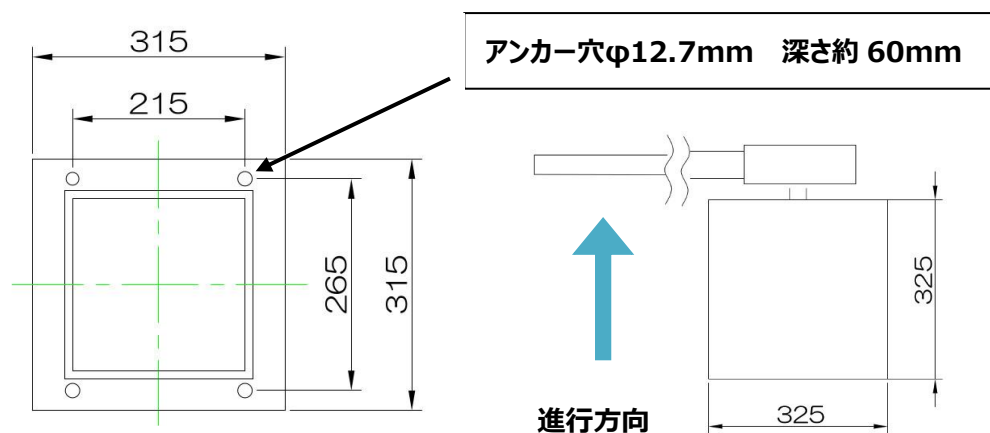
① 基礎寸法



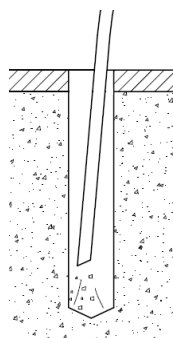
①、②共通（上面図）
基礎の幅と配管の立上げ位置です。参考にして
ください。

② アンカーボルト設置

アンカー穴位置及び削孔寸法は以下の図を参考にしてください。

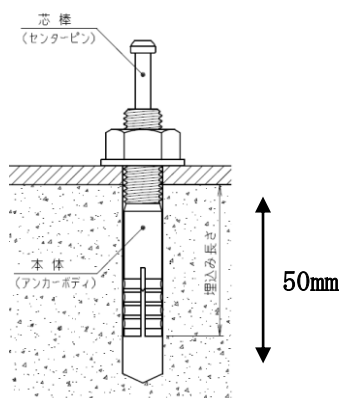


(1) 削孔



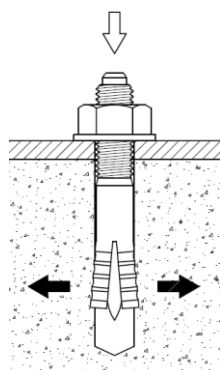
振動ドリルで削孔します。
ドリル径はφ12.7mm
削孔深さは 約 60mm
穴の中に溜まったコンクリート屑はゴムか
塩ビ管を挿入してエアを吹き込み排出
します。

(2) セット



コンクリートへの埋め込み長さが 50mm
になるようにアンカーを挿入します。

(3) 打込み



芯棒をハンマーで叩き込みます。
芯棒の頭部が本体の頂部に接するまで
垂直に打ち込みます。

③ 鋼板基礎（オプション）

オプションになります。次のような場合に施工します。

- i : コンクリート基礎の施工ができない
- ii : 仮設もしくは一時的にリモコンゲートを設置する

※リモコンゲートに同梱されているアンカーボルトを使用して設置できます。

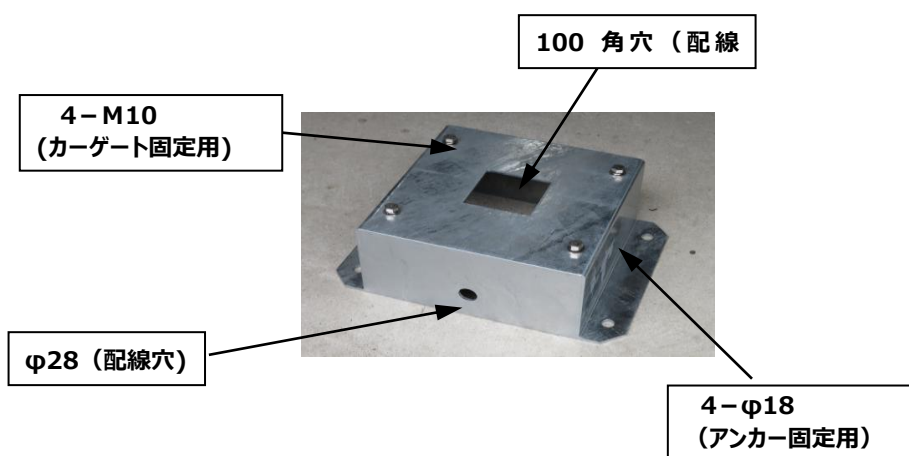
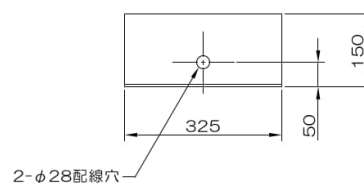
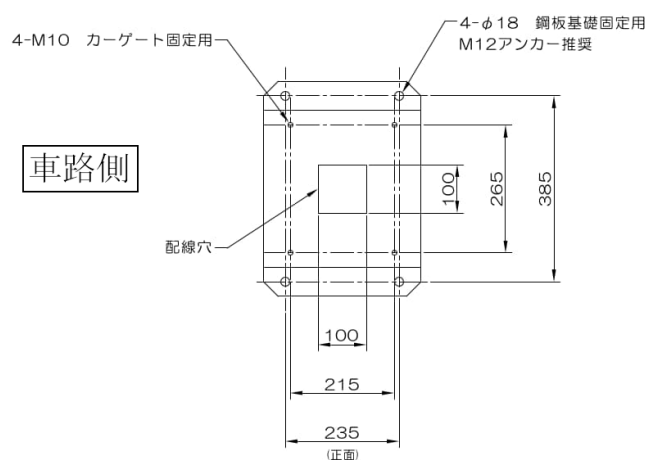
＜設置場所の注意＞

平らなコンクリート面に設置ください。

アンカーボルトで固定できるか確認ください。

外形図：次の外形寸法図を

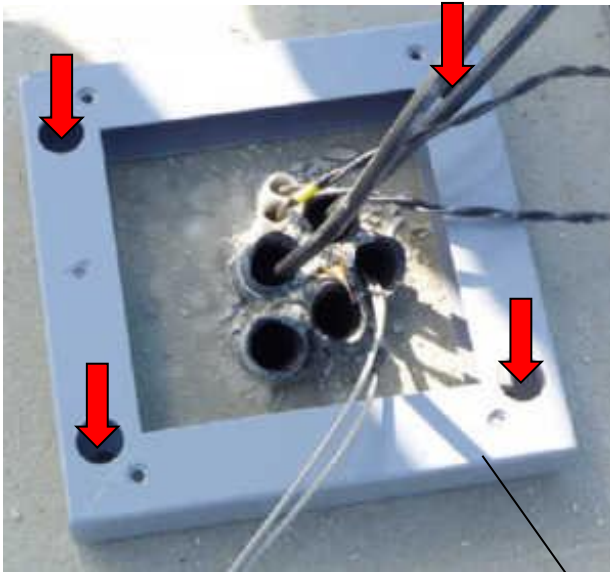
参照にスペースの確保をして施工する。



鋼板基礎施工後、リモコンゲートの据付（P19 参照）をします。据え付けの前に配線の確認をしてください。

2) リモコンゲートの据付

1. 架台据付



リモコンゲート本体下部より架台を取り外し、左写真の矢印の位置にアンカーボルトを合わせて基礎に固定してください。

(架台取り外し時にメンテナンス扉の位置を架台にマーキングすることを推奨します)

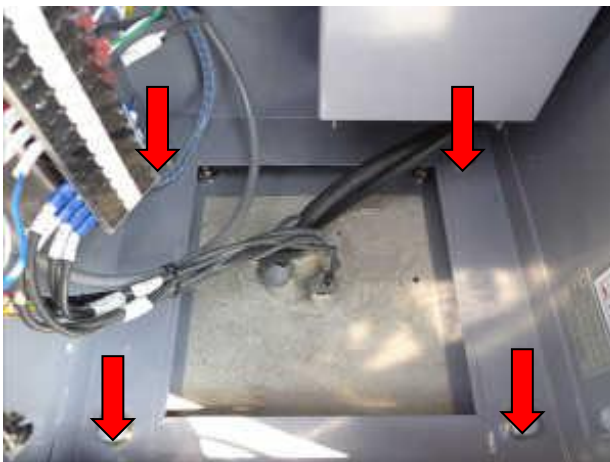
架台をアンカー位置に合わせて据付けた時、水準器で架台上面の水平をチェックします。

水平でない場合は、基礎面と架台底面の間にワッシャー等を挟んで調整してください。

(写真は参考)

架台

2. 本体据付



基礎に固定した架台にリモコンゲート本体を取り付けます。付属のボルト 4 本で矢印の位置へ固定してください。

リモコンゲートのメンテナンス扉はバーと反対側に向く様に設置してください。(写真は参考)



注意： 取り付けの方向及び架台とリモコンゲート本体の間にケーブルを挟み込まないようにご注意ください。

3) 結 線



注意！

＜接続作業の前に＞

結線接続の作業の前には、必ずリモコンゲート本体の電源及び
供給電源（元）を「切」にしてください。

電源線と信号線は別の配管で施工してください。

1. 外部電源の接続

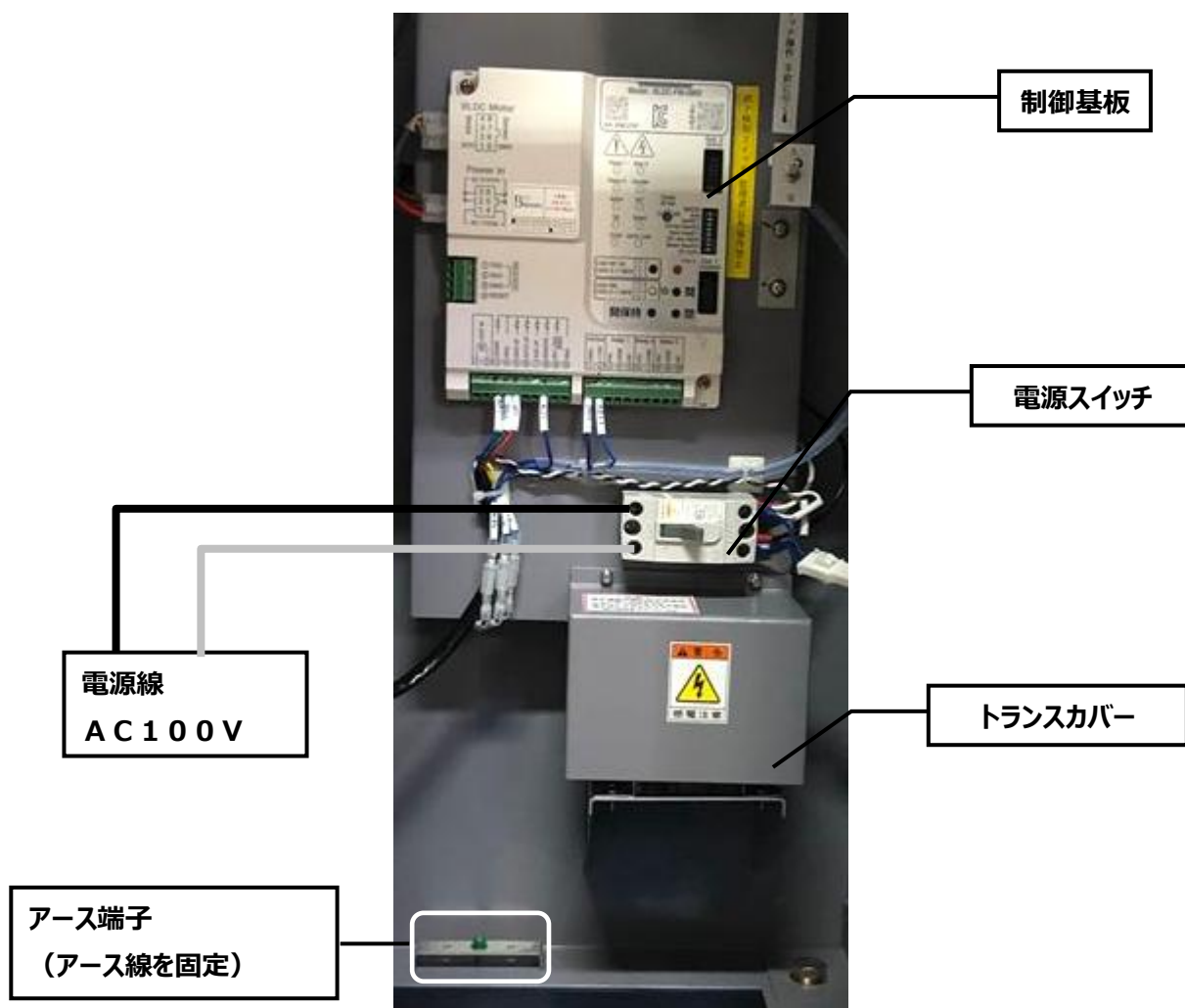
電源線を付属の圧着端子を用いてゲート制御部の外部端子台に接続します。

アース線は本体のアース端子に接続します。

※線種目安：サイズ 2 sq, 線数 2～3 心（50mまでの場合）



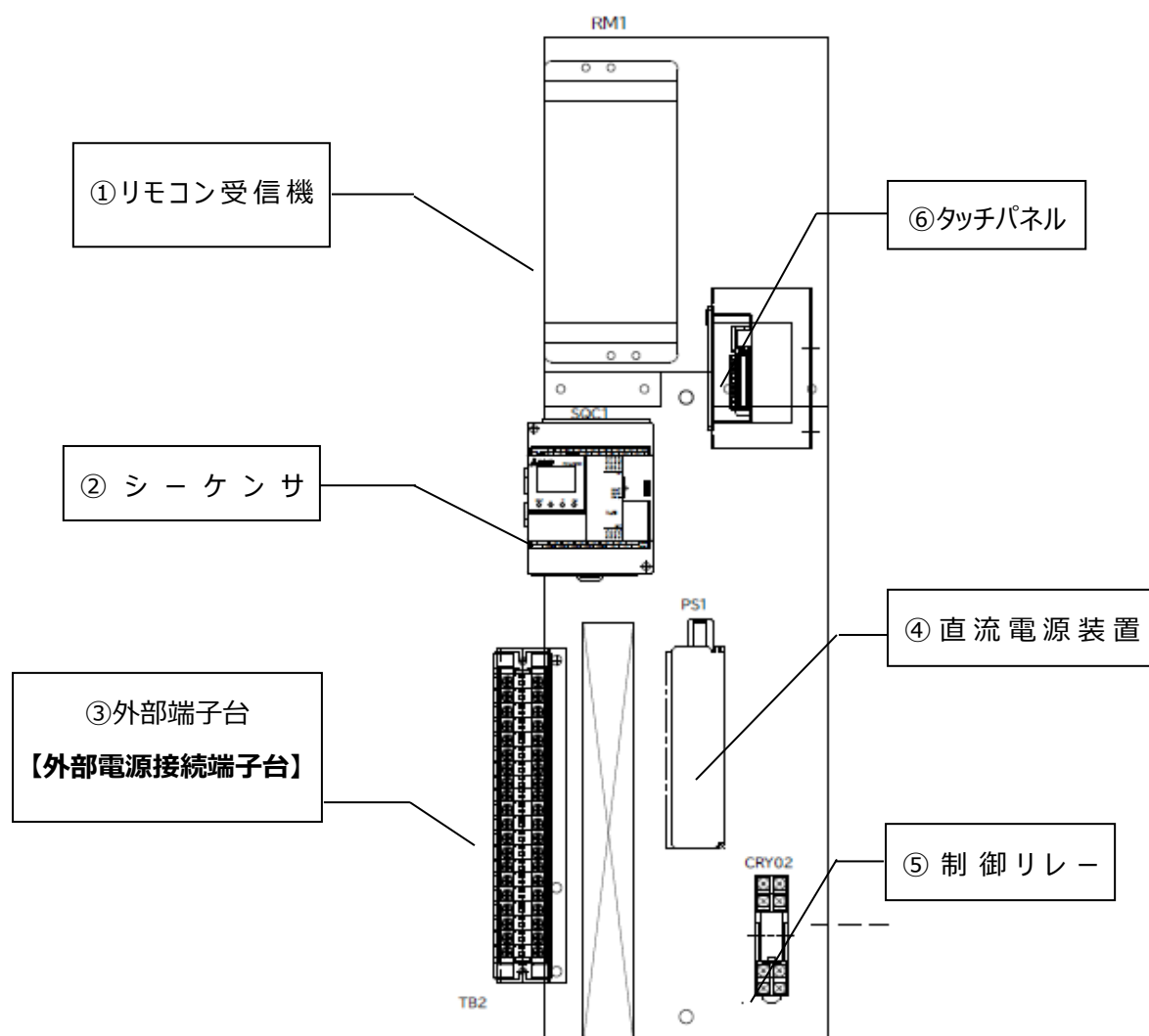
発電機からの電源供給は、故障の原因になりますので注意してください。



注 アース線は本体底面のアース端子に
結線してください。

2.外部接続端子台の接続

通常は接続の必要はありません。



外部端子台接続割付表を下に示します。

端子番号	内容	備 考
1	プラボックス	ゲートの開信号を SMARTIO に送ります
2	プラボックス	
3	外部信号出力	手動閉操作を行う時の端子です。 (使用しません)
4	外部信号出力	
5	空き	
6	レーザーセンサ 1 (DC24V)	入口 (メンテナンス扉) 側レーザーセンサを接続します。 (左設置の場合は出口側レーザーセンサとなります)
7	レーザーセンサ 1 (0V)	
8	レーザーセンサ 1 (X00)	
9	レーザーセンサ 2 (DC24V)	出口 (バーホルダ) 側レーザーセンサを接続します。 (左設置の場合は入口側レーザーセンサとなります)
1 0	レーザーセンサ 2 (0V)	
1 1	レーザーセンサ 2 (X00)	
1 2	プラボックス	ゲートの開閉状態を SMARTIO に送ります
1 3	プラボックス	
1 4	空き	
1 5	空き	
1 6	入出庫警報灯出力	使用しません
1 7	入出庫警報灯出力	使用しません
1 8	AC100V 入力	
1 9	AC100V 入力	
2 0	アース	

3. レーザーセンサ接続組替え

出荷時は発注された設置方向での配線がされています。

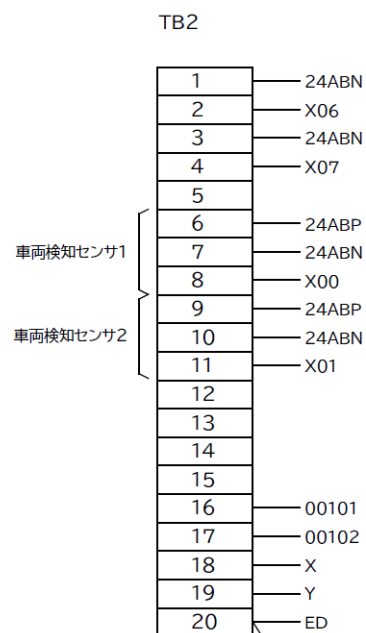
発注された設置方向と異なる場合には、端子台の配線を組み替えてください。

【右設置の場合】 レーザーセンサ 1（メンテナンス扉側）を端子台 6～8、
レーザーセンサ 2（バーホルダ側）を端子台 9～11

【左設置の場合】 レーザーセンサ 2（バーホルダ側）を端子台 6～8、
レーザーセンサ 1（メンテナンス扉側）を端子台 9～11 に
入線してください。

メンテナンス扉側のレーザーセンサが「レーザーセンサ 1」となります。

バーホルダ側のレーザーセンサが「レーザーセンサ 2」となります。



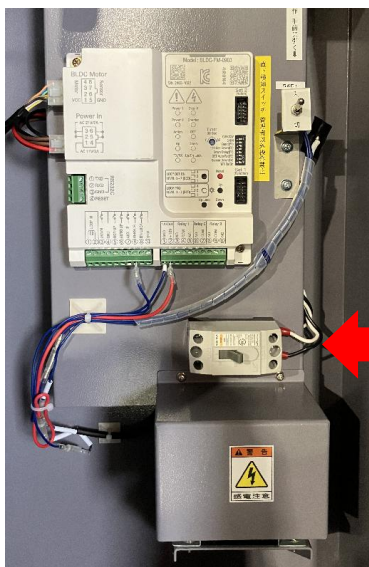
電源の入切

■ 電源の入切をする際は、前面のメンテナンス扉を開けて行います。

※納入時は「切」の設定です。

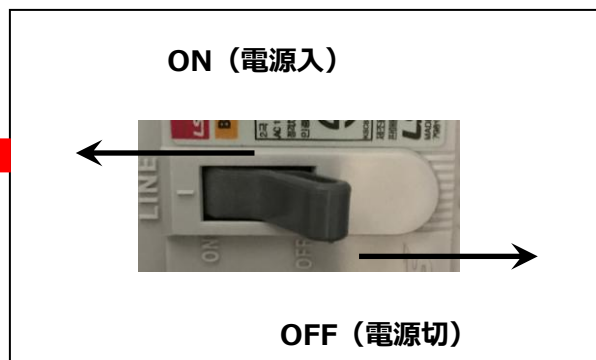


④ 電源スイッチを「入」または「切」にします（詳細は下図）



電源入：電源スイッチレバーを左側へ操作します。

電源切：電源スイッチレバーを右側へ操作します。



ゲートバーが閉まった状態で電源を入ると、初期化のためにゲートバーがゆっくり上昇（開）します。開き終わったらゲート開閉ボタンでゲートバーを閉じて運用を開始して下さい。

（ゲート開閉ボタンは P9 参照）



注意：本機の清掃やメンテナンス、ゲートバーの取付け及び交換を行う際には、必ず電源を切ってください。

ゲートバーの取付

購入したゲートバーの種類を確認し、手順にそって取り付けをしてください。

納入時には、ゲートバーの水平角度調を納入したゲートバーに合わせて調整済みです。

設置後に調整をしたい場合は、取り付け後 P31 の「設置後の設定変更や困った時には・・・」を参照してください。

また、ゲートバーを取り外す場合は、取り付けと逆手順で行ってください。

<ゲートバーの取付けの種類>

角型ゲートバー（アルミ製）

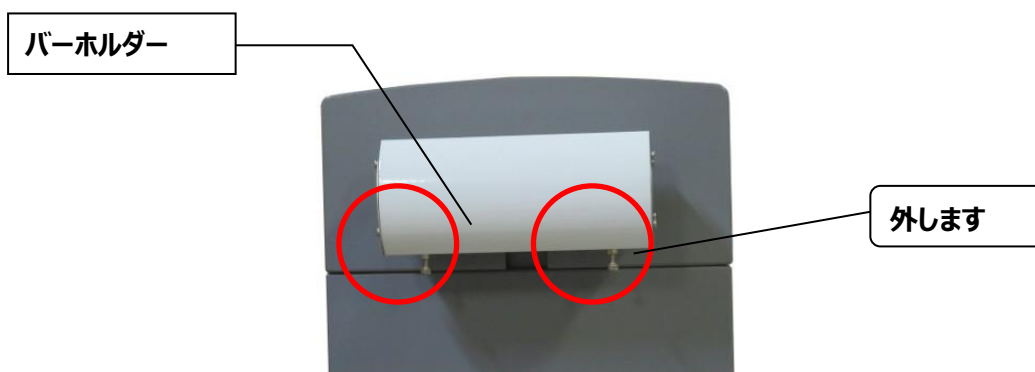
角型 LED 付ゲートバー（アルミ製）（オプション）



：必ず電源スイッチを「切」にしてから作業を行ってください。

●ゲートバーを取付ける前に、下記の手順を必ず行ってください（全ゲートバー共通）

1. 電源を入れます。(P24 参照)
2. バーホルダーをゲート開閉ボタンで閉の状態にします。(P9 参照)
3. 電源スイッチを「切」にします。購入時は「切」設定です(P24 参照)
4. バーホルダーに固定されている M5 六角穴付ボルト（キャップボルト）及び M5 ナット(丸印)を付属の工具(4mm 六角レンチ・8mm スパナ)を使用して、M5 ナットを緩め、M5 六角穴付ボルト（キャップボルト）を外します。



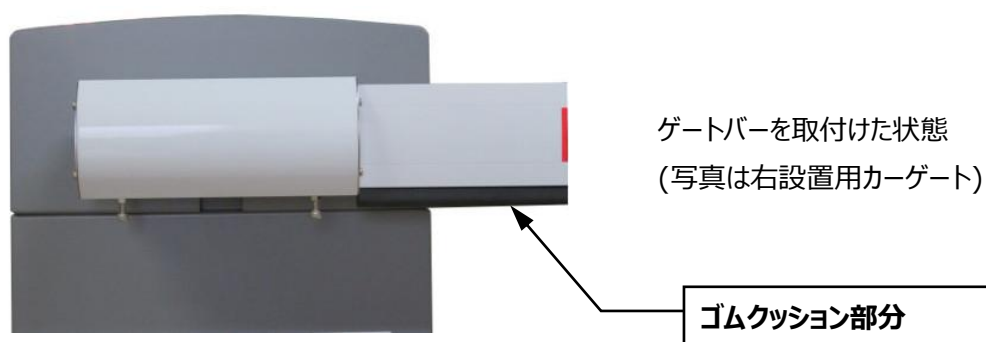
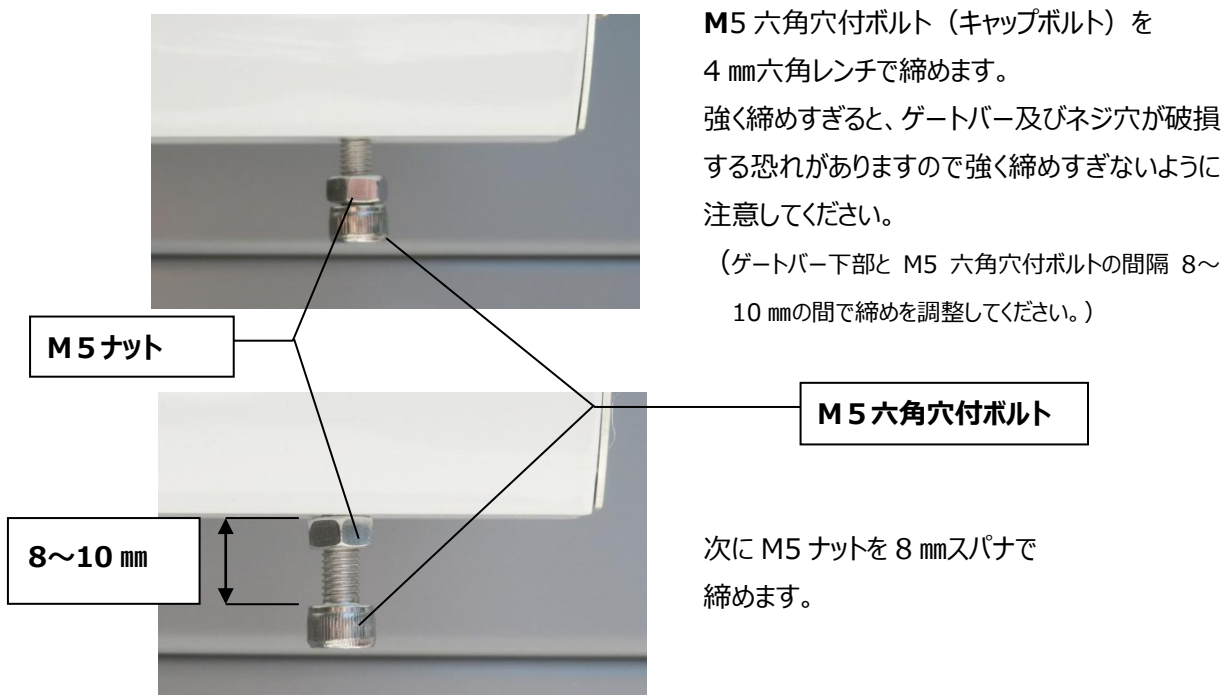
1.～4.を順に行ったら後、ゲートバーの種類にそった取付けを行ってください。

【 角型ゲートバー（3mアルミ製） 】

1.～4.を手順にそって行います。（P25 参照）

5. ゲートバーをバーホルダーへ差し込み、下部のボルト（M5 六角穴付き）を締めて固定します。

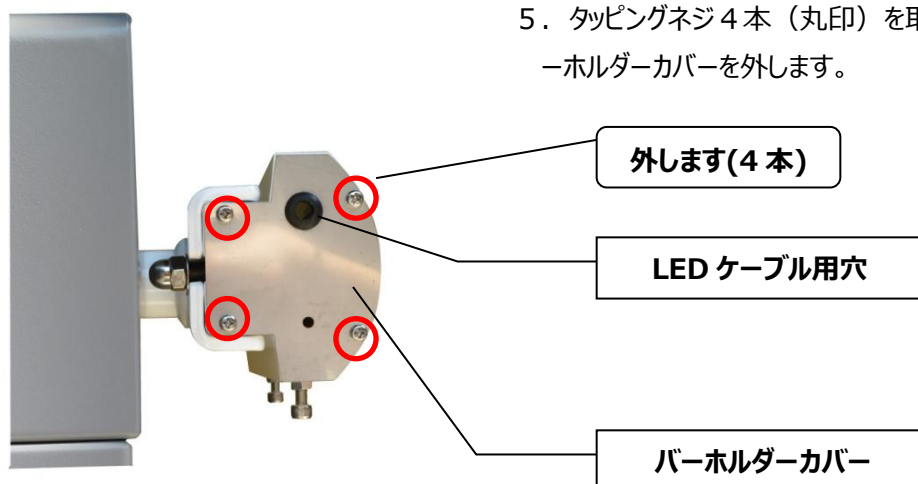
※ゲートバーの向きは、ゲートバーが閉じた時に、ゲートバーのゴムクッションが下になる状態にしてください。



【 角型 LED 付ゲートバー（3mアルミ製） 】

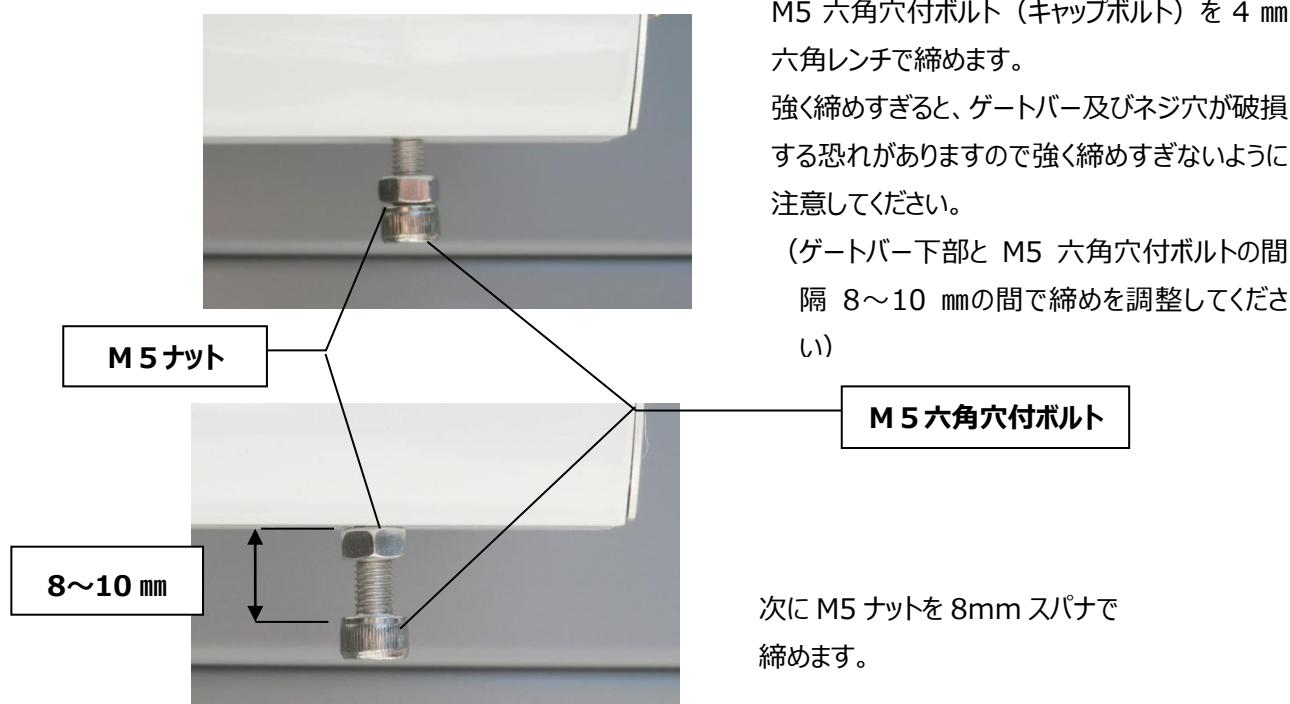
1.～4 を手順にそって行います。（P25 参照）

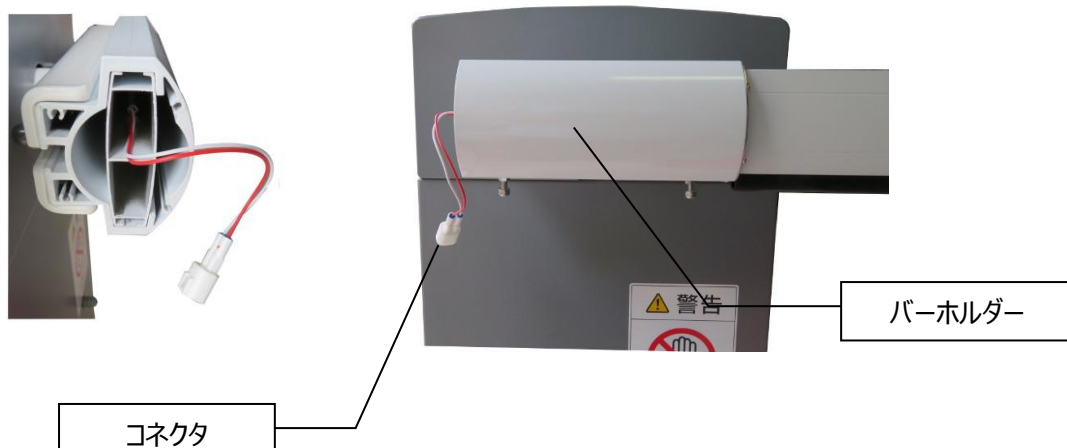
5. タッピングネジ 4 本（丸印）を取り外して、バーホルダーカバーを外します。



6. ゲートバーをバーホルダーへ差し込み、下部のボルト（M5 六角穴付き）を締めて固定します。

※ゲートバーの向きは、ゲートバーが閉じた時に、ゲートバーのゴムクッションが下になる状態にしてください。

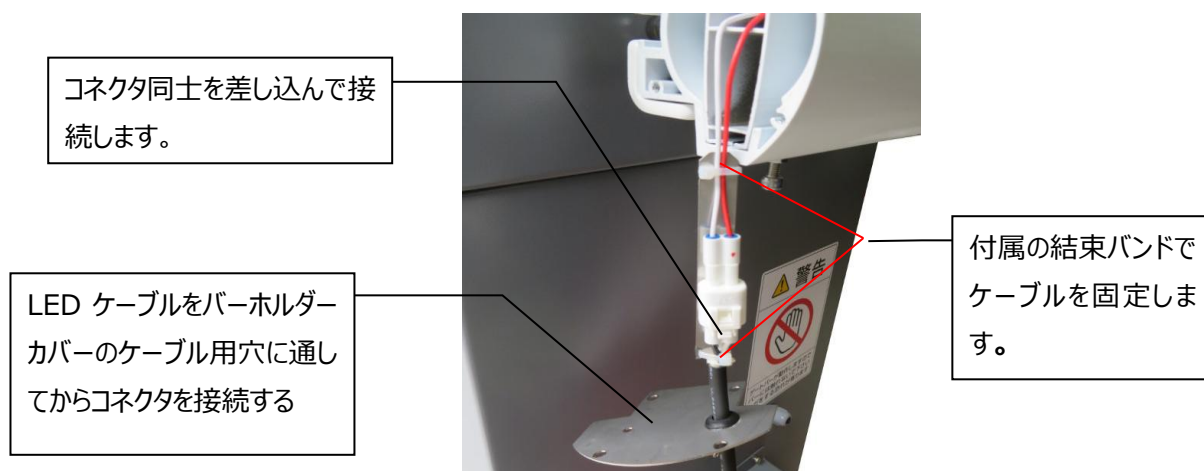




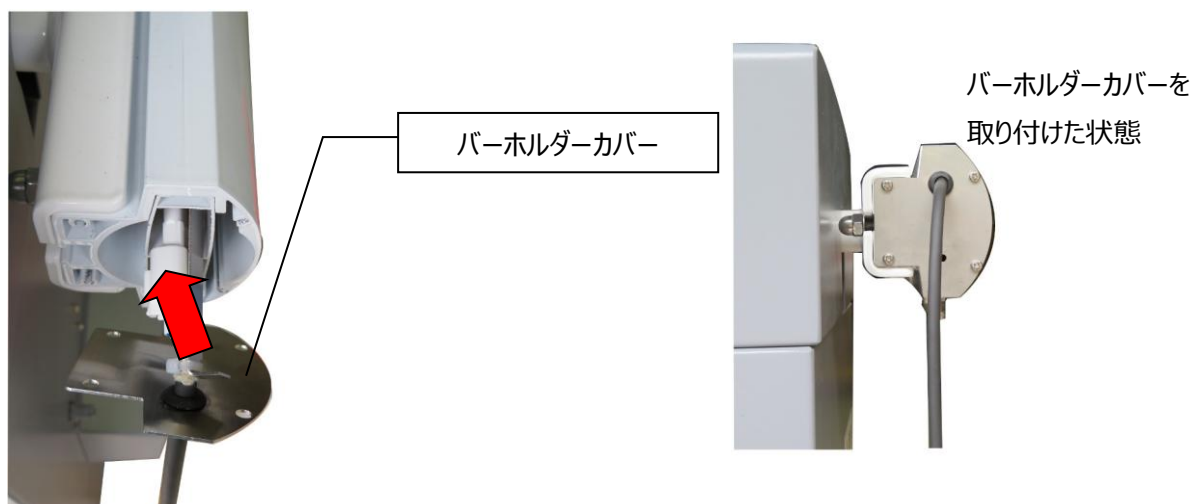
ゲートバー取付け後（写真は右設置用カーゲート）

ゲートバーの根元の先端がバーホルダーからはみ出さないようにしてください。

7. ゲートバー側の接続されているコネクタとカーゲート本体側の接続されているコネクタ同士を差し込み固定します。次に付属の結束バンドでゲートバー側のケーブルを固定します。



8. 接続されているコネクタをゲートバー内部へ挿入し、タッピングネジ 4 本を締め、バーホルダーカバーを取り付けます。



SMARTIO の設定

スマートフォンで本カーゲートを操作するためには、Web ブラウザの設定、ユーザー登録が必要です。
付属品に同梱されています管理者アカウント設定ガイド、初期設定ガイドに従って設定・ユーザー登録を行ってください。

動作確認

設置・SMARTIO の設定終了後、次の手順で動作確認をしてください。確認後、□にチェックマークを入れ漏れがないようお願いいたします。動作確認の作業には 2 名を必要とします。

□ 1. 電圧測定をする

- 1) テスターで電圧を測定する。

出荷時のご指定がない限り AC100V の設定です。105V を超えた場合は、電圧の設定を 110V に変更をお願いします。P37「カーゲートトランスの電圧変更」を参照してください。

※測定時 _____ V

電圧を変更しましたか？

→変更した・変更しなかった（○印をしてください）

□ 2. 電源を入れる

P24 の「電源の入切」を参照にしてください

□ 3. 手動で開閉操作をする

制御基盤のゲート開閉ボタンで「開・閉」の動作確認をし、正常にゲートバーが開・閉したか確認をする。P9 の「ゲート開閉ボタン」参照に動作確認をしてください。

□ 4. 直下検知機能の確認

- 1) 直下検知センサから 2m の位置で反転開の動作確認をします。
- 2) ゲートバーの閉動作と同時に、直下検知器の高さに白板（一辺 30 cmの白色無光沢紙を張付けた板）を差し出します。
- 3) 2) の際にゲートが開動作をしたか確認します。開動作をしたら動作は正常です。開動作をしなかった場合は P34「直下検知センサの調整」を参照して確認ください。
- 4) 次の設置環境状況により、直下検知センサが誤作動することがあります。
誤作動の可能性のあるもしくは誤作動がでた場合は P34「直下検知センサの調整」を参照して角度調整をしてください。

- ① 光軸延長線上に反射物がある場合（例：白線・反射テープ・縁石等）
- ② 路面がぬれた状態のままの場合

□ 5. リモコン機能（開）

同梱のリモコンで開確認をする。7 項の実車確認時に行います。

リモコンの操作については、P6「リモコンの名称とはたらき」を参照にしてください。

□ 6. ゲートバーの水平確認

1) ゲートバーを取付け後、ゲートバーを閉の状態にします。

2) ゲートバーの元と先端の位置で地表からの高さを測定し、両方の差異が 5 cm以内であるか確認します。

※水平の調整は、P32「ゲートバーの水平角度調整」を参照にしてください。

□ 7. 実車確認（レーザーセンサ動作確認）

実際に、開閉動作が行われるかの最終確認です。

乗車した状態で一連の動作確認をしてください。

本仕様は、入りチェック、出フリー仕様となっています。

入口（入場）ではレーザーセンサ 1 検知後（車両検知ランプが緑色に点灯したら）、無線リモコンの「OPEN」ボタンを操作することによりゲートが開動作します。

車両通過後、レーザーセンサ 2 が切れる（車両検知ランプが消灯します）とゲートが閉動作します。

出口（退出）ではレーザーセンサ 2 検知後ゲートが開動作します。

車両通過後、レーザーセンサ 1 が切れるとゲートが閉動作します。

無線リモコンのボタンでは操作できません。

ここからはスマートフォンで操作するための手順です

□ 8. スマートフォンに S M A R T I O のアイコンを登録し実車確認する

別紙【初期設定ガイド】に従いスマートフォンにアイコンを登録します。

登録の完了したスマートフォンにより以下の動作を確認します。

入口（入場）レーザーセンサ検知後（車両検知ランプが緑に点灯する）スマートフォンのゲート開操作「実行する」ボタンを操作することによりゲートが開動作します。

車両通過後、レーザーセンサ 2 が切れる（車両検知ランプが消灯します）とゲートが閉動作します。

出口（退出）ではレーザーセンサ 2 検知後ゲートが開動作します。

車両通過後、レーザーセンサ 1 が切れるとゲートが閉動作します。

以上の動作確認が終わりましたら、チェックマークに記入漏れがないか確認をし、施工説明書と一緒に取扱説明書及び同梱された付属品一式をお客様にお渡しいただくようお願いいたします。

設置後の設定変更や困った時には・・・

設置後、動作確認での調整や変更のやり直しがある場合は、次の項目を参考に行ってください。

1) ゲートバーの水平角度調整

ゲートバー設置後、ゲートバーが閉じた状態でのゲートバーの高さを調整する場合に行います。

2) レーザーセンサの調整

<作業の前に確認>

レーザーセンサの端子台への接続は P13 通りになっているか確認して下さい。

レーザーセンサは工場出荷時設定で調整されていますので調整はできません。

(設定の変更が必要な場合は弊社までご連絡下さい)

車両がいなくて検知する場合は、検知エリア内に光源や動物体、植物等がないか確認してください。ま

た、煙や霧が検知エリアに侵入していないか確認して下さい。

3) 直下検知センサの調整

設置時にゲートバーが閉操作をしてもさがらない、反転動作しない場合に行います。

4) カーゲートトランスの電圧変更 AC110V用の結線

1) ゲートバーの水平角度調整

購入時に、ゲートバーに合わせて角度調整済みです。

ゲートバーの取替後時などに調整を行いたい場合は、下記の手順にそって行ってください。



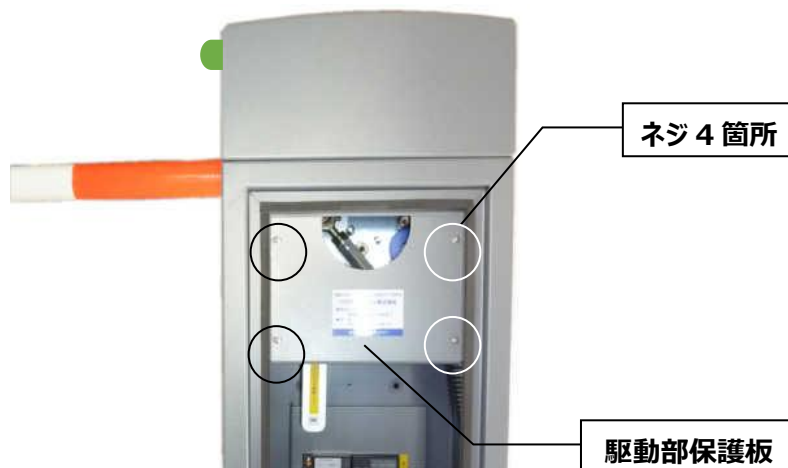
必ず電源スイッチを「切」にしてから作業を行ってください。

また、オプションでバー受けがある場合は、ゲートバーの先端がバー受けに激しく当たらないように調整してください。

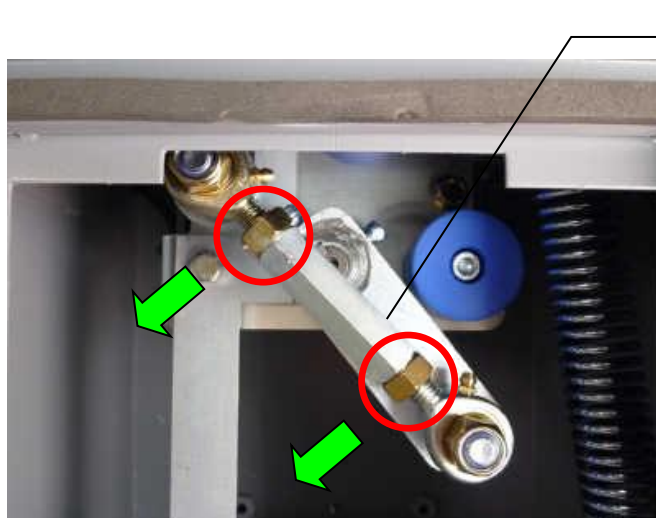
<用意する道具>

- ・プラスドライバー 1本
- ・スパナ(19 mm) 2本

1. ゲートバーを閉じます。
2. 電源スイッチを「切」にします。(P24 参照)
3. プラスドライバーを使用してネジを4箇所(丸印)外し、駆動部保護板を取り外します。



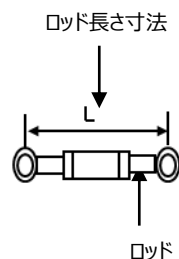
4. 下記写真の M12 高ナット 2 箇所(丸印)を 19 mmスパナで緩めます



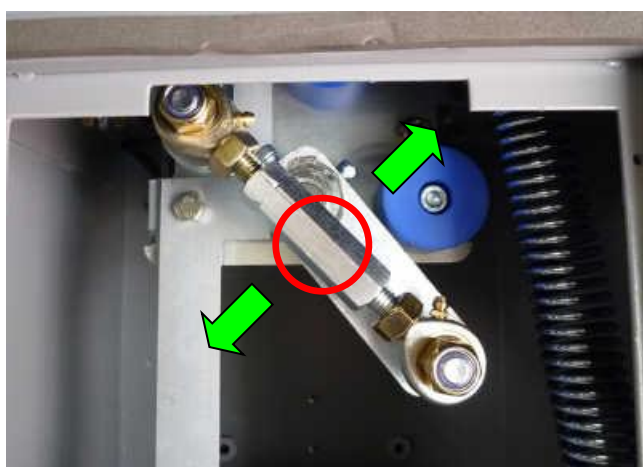
19 mmスパナを2本準備して1本はM12 高ナットに固定させ、もう1本はM12 ナットを矢印の方向へ回し緩めます。

※長さ調整の目安

	アルミ 3m
ロッド長さ寸法	141



5. 下記、写真の M12 高ナット（丸印）の締緩によりゲートバーの傾きを調整します。
（19 mmパナ使用）



ゲートバーが上昇します



ゲートバーが下降します

6. ゲートバーの傾きを調整したら、上記 4. で緩めた M12 ナット 2 箇所（丸印）を締めます。
（19 mmスパナ使用）

7. 電源スイッチを「入」にして、ゲートバーを開閉して水平位置の確認を行います。再度調整が必要な場合は、前述の 4. の手順へ戻り再調整を行ってください。

※機器の構造上、ゲートバーの角度は閉から開までの 90 度の固定となります。したがって水平位置に対して角度を設けた場合は、垂直位置に対しても水平位置角度の影響がでます。

8. 角度調整が終わったら、前述の 3. で外した駆動部保護板を取り付けます。

2) 直下検知センサの調整

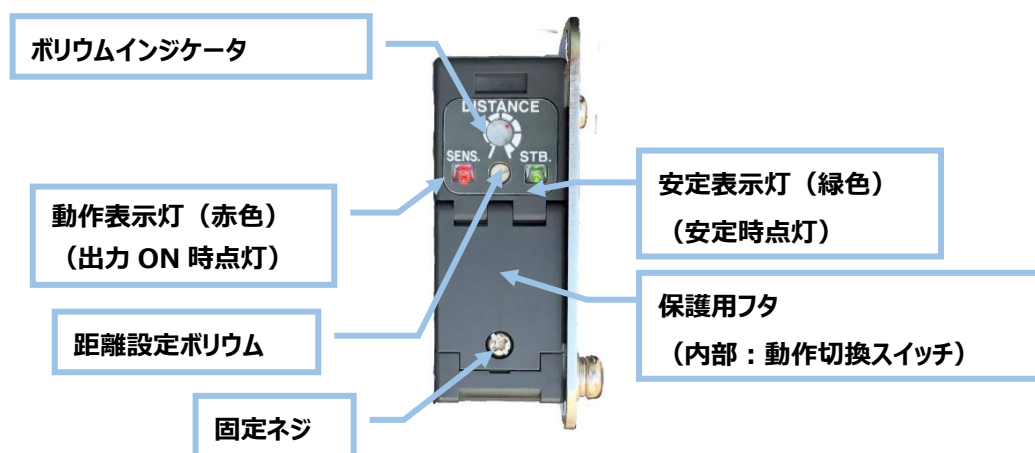
＜用意する道具＞

- ・プラスドライバ
- ・付属の調整ドライバ
- ・一辺 30cm の白色無光沢紙を張り付けた板

1. 直下検知センサカバーを外す。
カバーを止めているネジ 4 箇所（○印）を外し、カバーを外します。



＜直下検知センサ名称＞



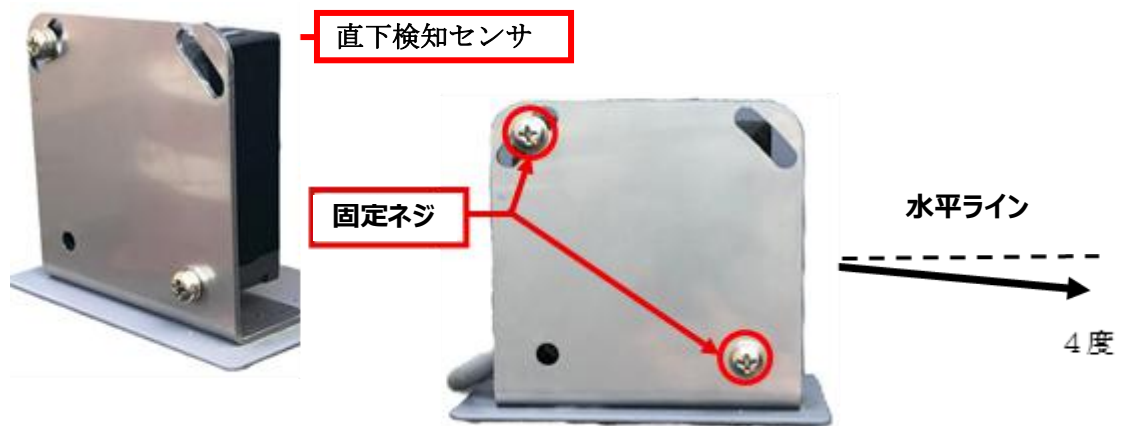
2. 動作切換スイッチの確認をします。
固定ネジを緩め、保護用フタを開けます。
一番上のスイッチが「 L 」側になっている事を確認します。
なっていない場合は、スイッチを「 L 」側に合わせてください。
確認したら閉めて元にもどします。

動作切換スイッチ
L : 検出時 ON
D : 非検出時 ON

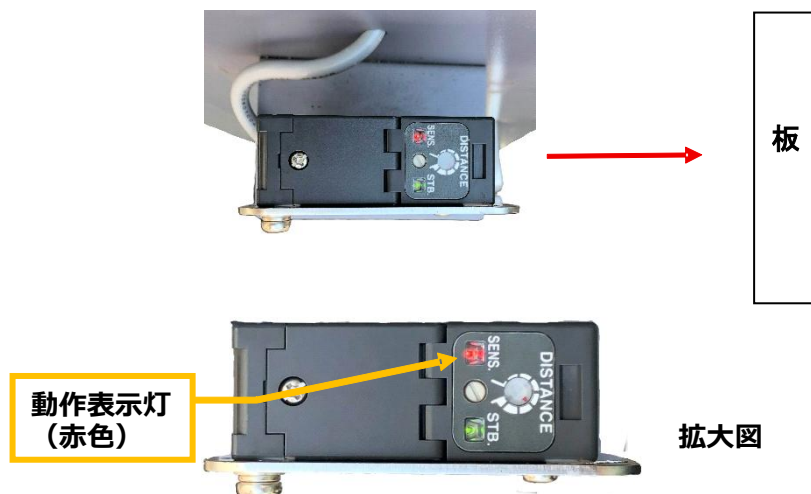


3. 直下検知センサの角度を調整します。

固定ネジをゆるめて、センサの角度を水平ラインから4度ほど下げ、固定ネジを締めます。

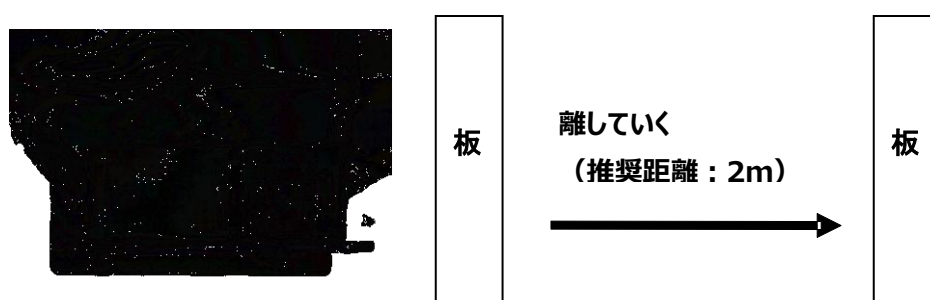


4. センサの前に用意した板をかざして、動作表示灯が赤く点灯する事を確認します。



5. 板をゆっくりとセンサから離していき、動作表示灯が点灯しなくなる位置を確認します。

(推奨距離：約 2m)



6. 検出距離を調整する場合は、付属の調整ドライバーで距離設定ボリウムを回します。



7. 板をセンサの前から取り除いた時に、安定表示灯が緑に点灯する事を確認します。



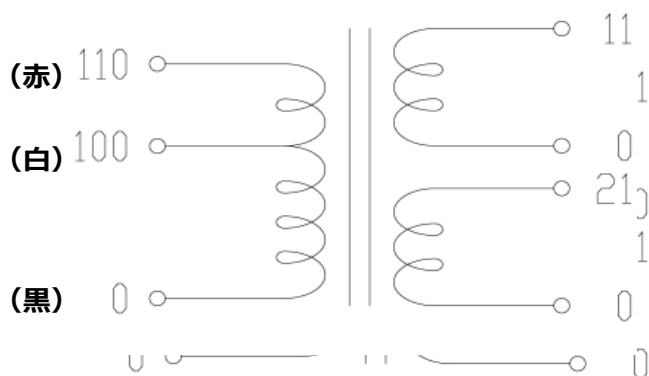
8. 調整が終わったら、直下検知センサ部カバーを取り付けます。

3) カーゲートトランスの電圧変更 AC110V 用結線

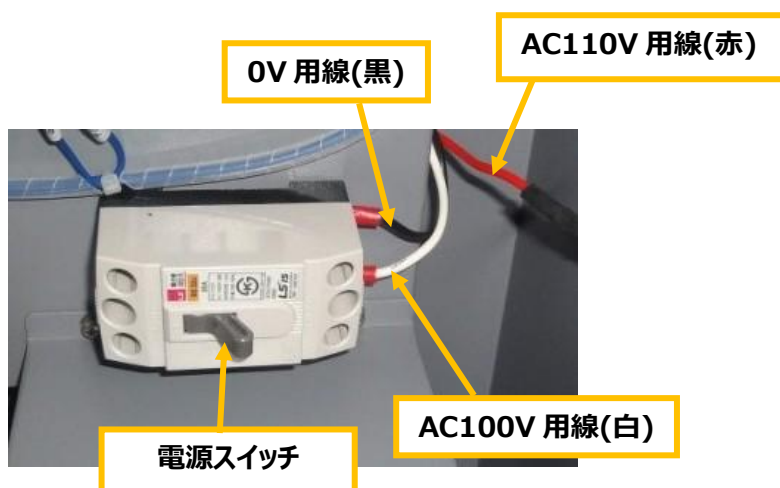


注意！＜作業の前に＞

結線接続の作業の前には、必ずリモコンゲート本体の電源及び供給電源（元）を「切」にしてください。



トランス結線図



【 結線の手順 】

1. 上図の様に、ブレーカ 2 次側より盤背部へと繋がる線を引き出すと、黒い絶縁チューブが被せられた AC110V 用線(赤)が出てきます。
2. AC110V 用線（赤）の絶縁チューブを取り除き、AC100V 用線（白）と差し換えて下さい。その後 AC100V 用線（白）には、黒ビニールテープ等で絶縁処理をして下さい。

※無線式リモコンゲートの場合、無線式リモコン用電源線も同じ端子に接続されていますので、差し換え時に外れないよう注意して下さい。リモコン用電源線はやや細い線を使用しています。

注：AC110V タップに結線した場合、定格電圧は単相 AC110V±10%となります。

MEMO

改訂履歴

版数	改訂年月日	改訂内容
第 1 版	2026 年 2 月 16 日	初版発行



PUBLIC SYSTEM
パブリックシステム株式会社

<https://public-s.com/>



0120-887-182 (平日 9:00~17:30)

本社

〒501-4203

岐阜県郡上市八幡町初納 1542-1

TEL:0575-62-3511 FAX:0575-62-3515